

五

五丁部一由第三八号
坂本直道氏用

政体と日本天皇制

取扱注意
部外極秘

部外極秘

安 剛 正 篤

裏面白紙

天皇制研究第一號（部外極秘）

天皇制護持の積極的合理的根拠に付各方面専門家の協力
援助を得て徹底的研究を進め居る處本稿は金雞学院々長
安岡正篤氏より提出せられたる意見なり

昭和二十年十二月

外務省調査局第一課長

裏面白紙

政体と天皇制

安岡正篤

政体は学者に依つて色々に分類せられるが、此處ではやはり一般に慣用せられてゐる旧分類、即ち君主、貴族、民衆の三政体に分つて其の長短得失に對するちよの学者の批判を臆検してその立場から日本天皇制を觀察してみよう。今や日本を擧げて天皇制存廢問題に賛否の論が喧ましいが、随分感情や偏見を含んだものが多いから冷静に學問的に論述してみたい。

かういふ場合誰しも先づ一應溯つて調べて見るのはプラトール Plato、アリストートル Aristotle である。

◎プラトール説

プラトールに依れば人間精神には形而上的要素と形而下的要素とがあり、前者は人間を絶対者^{絶対者}に結び、後者は人間を生滅流轉の感覺世

界に結ぶ、その前者を理性と言ひ、後者のうち理性の命に聽従して感覺世界を淨化向上せんとするものを意志とし、これに逆はりとするものを情欲と言ふ。人生は理性の取者により、意志の駿馬に鞭ち、情欲の象を率ゐて絶対地に歸往するにある。國家もこの意味に於て正しく一つの大きな人である。乃ち人間の情欲に相当する民衆があつて、それに対して理性の命に従ひ、内民衆の安寧秩序を保ち、外、外國の來侮を斥ける意志の權化としての文武官吏があり、この兩者の上に最高の理性に當る治者、君主がなければならぬ。君主は理性そのものなるべきが故に、最も高き道徳的精神の人、即ち哲人でなければならぬ。哲人にして國家に君主となれば、政治様式等はどうあらうとも問題ではない。哲人が國家に君主とならぬ限り或ひは現在の治者君主にして眞に哲人とならぬ限り民衆は到底災厄を免れることは出来なうと言ふのである。

専ら科学を旨とする現代人からはアラトのかう言ふ主觀主義的の考へ方よりも、次のアリストトールの客觀的な説の方に遙かに學問的な

魅力を見られるであらう。

◎アリストトール説

アリストトールは政治上質は量に伴ふものであつて民衆政治は如何しても少数政治に勝るものと考へた。

(一) 多くの事例に於て民衆の輿論は如何なる個人よりもその判断が勝れてゐるのが常である。

(二) 多数は少数より腐敗し難い。例へば感情に驅けたり、人に欺かれたりして正道を誤ることか少い。

(三) 多数は徒党を作るがその性質は常に多数そのものの性質と同様に比較的善である。

と言ふのが彼の見解である。政治の合理性を民衆の方に認めたる者で世人に聊か以外に感ぜられるのはマキヤヴェリ Machiavelli である。

◎マキヤヴェリ説

彼は君主の爲に政道を説いたその有名な政治論の故に極端な専制君主政治論者の様に一般に考へられてゐるが、彼はローマの政治学者木

リビウス Polybius が唱へた様にかの三政体について各々正と不正との二種に分ち、都合六種政体の循環を説いて民衆政治をそのうちまた一番ましなものと考えた。それは

- (一) 無法の君主は無法の民衆と衰りはない。
 - (二) 一時の激情に煽られて大事を誤り易い事も同様である。
 - (三) 忘恩且つ恒心のないことについても亦然り。
 - (四) 見識批判にかけては民衆は君主に勝る。
 - (五) 官又の選任は君主よりも民衆の方が誠実にやろ。
 - (六) 民衆は君主より善言に耳を傾け易い。
- 等の理由からである。然し乍らアリストールやマキヤヴェリとは正反對な見解も亦民衆について行はれてゐる。
- トーマス・アキナス *St. Thomas Aquinas* は多数政治は別る處不和と鬭争であることを指摘し、トーマス・ホッブス *Thomas Hobbes* も民衆の方が君主よりも小人に誤られ易い處を説き、フイルマー *Robert Filmer* に至つては民衆政治を次の様に觀察して君主政治を主張してゐる。

- (一) 民衆政治と言つても実は一部少数の者が民衆の名を假つて野心を恣にするに過ぎない。
- (二) 民衆の性質は本来放縱に趨り易く随つてその政治は危険である。史上ノ实例に徴しても民衆政治は多くの賢人を害してゐる。ギリシヤのマリスタスやテミストクレスは追放され、ミルチアデスは投獄され、フォシオンは死刑となり羅馬でもシピオ兄弟は追放、タキツス、グセノフォン、キケロ等は民衆を「多頭の獸」と呼んで程である。
- (三) 君主政治に付いては暴君の専政を恐れろのが常であるが暴君は責任を免れ難いこと到底民衆の様な好い加減なものではない。英國史上でもノルマン征服後六百年間二十六王一も暴君と言ふべきほどの者はない。英國の内乱は暴君よりも民衆の放縱から起つてゐる。前掲のホッブスは又
- (一) 君主の方が政治から利己的目的を排斥して公益に合致せしめ易い
- (二) 君主政治の方が政務を統一し簡捷にする便宜がある。

として君主政治に賛成してゐる。かう言ふ現実問題の外にアキナスは
彼独得の哲学から次の様に君主政治論を主張してゐる。

◎ アキナス説

自然の法則を觀るに、凡て一元的に統制が行はれてゐる。肉体は心
により、宇宙は神に依り、政治に於ても多数は到る處不和と鬭争とで
ある。とうしても絶對的な一者に依る政治、即ち君主政治でなければ
ならぬ。但し君主政治は最良であると同時に一度暴君が出ると却つて
最悪のものとなる。そこで君主政治には暴君を廢することを考へねば
ならぬ。之についで或る者は偉大な人物をして暴君を放伐し、國民生
活の脅威を除かしめねばならぬと言ふ暴君放伐論を主張する。然し之
は聖書からも認められない。ベテロも言つた様に人は正邪を裁判くべ
きではない。又不正なる主人として罰する事は出来ぬ。それは全く神の
權に委ねらるべきことである。暴君の虐政に対する反抗は個人の判断
に待つべきではなく、公的權威に依つて決せられねばならぬ。然らば
その公的權威は如何にして發動し得るか

(一) 國民が君主の選任權を有する場合、選任機關即ち元老院や議會で
廢立することが出来る。

(二) 上級機關有つて君主を選任する場合、例へばローマ皇帝下のユグ
ヤの如き、皇帝に訴へてその暴君を排除することが出来る。

(三) そんな手段が一切無い場合、その時は神に任す外はない。

人類の社會生活には統一秩序がなければならず、統一には中心(六極)
がなければならぬと言ふ見地からダンテ Dante も君主政治を主張し、
これを推して世界の君主國の對立は人類の禍であるとして世界平和の
爲に世界國家 Universal State を考へ、世界は一大君主に統治されねばな
らぬとした事は有名である。

マキヤヴェリと同様の意味に於て一般人の考へ方から寧ろ意外に思は
れるは、民主主義の本山と目されてゐるルッソー Rousseau である。彼は
君主政治嫌ひで民衆政治の謳歌者の代表的人物の様に解されてゐるが
実は公正に各種の政治形態を觀察して君主政體は理論として極めて好
い政體であるが君主を世襲とすれば各主は出難し、選挙とすれば毎

に國家の不安動搖を招く。それに政道は民情に通づるを要するが、君民の間は免れ疎隔し易い。何れにしても困難な政体である。貴族政体は人民に貧富に依つて墮落せず、門地や閱歴を重んずる淳厚な風俗があれば賢人を推戴し政務を簡捷にする候があるが稍もすれば階級的反感闘争を免れない。これに対して民主政体は

- (一) 人民相互が相知り得る程度に小國なること
 - (二) 風俗が簡素で政務が煩瑣でないこと
 - (三) 貧富の懸隔、階級闘争の爲に組織が互解する憂の無いこと
- 等の諸條件が備はれば良政が現実にて之程政變の起り易い不安な政体ではない。恐らく之は神のみに適する政体であつて人間には適すまい。凡そ政治には集約する *Contract* 作用と解消する *dividing* 作用と相對的に含まれて居つて、前者に傾けば民衆と貴族と君主と歸往するが、後者に傾むけば君主と貴族と民衆に向ひ遂に暴民政治 *Oligarchy* に成つてしまふ。故に民衆政治程集約向上を図つて常に正しく公共の福利を目的とする民衆の共同意志の實現に注意せねばならぬと説いてゐる。

この奥に就てはモンテスキューも亦彼と意見を同じくして居る之等の諸説を仔細に考察してくれば政体の得失についてはもう十分論が盡されてゐる。君主政治が善いか民衆政治が善いかと言ふ様な事を抽象的に一般的に論じて見てもそれは無駄である。正しくは國民の教養、経済や宗教をも含めた生活状態、慣習、傳統、文化、つまり國民の歴史的展開に即してその國民の秩序、平和、自由、文化を促進し世間人類の幸福に寄與すべき。

共同善 *Common good* を達成せんとする文明社會の眞意

(*) *real will* とも言ふべきものを體現運用するに最も好ましい自然な政体が決定されねばならぬ。シユライエルマッハー *Schleiermacher* も三個の旧分類（即ち君主、貴族、民主）は殊に相矛盾する例へば民主制で指導者は貴族制に類似し、又ペリクレスの様に一人が君主の支配をすゝる事もある。君主制でも亦さうで、ミラボウも或る意味で君主制は共和制であると言つて居るが正しく其の通りである。

※(三)と論じて居る。政治の成立活動する形式や理論にはかり拘泥する
とこういふ矛盾に陥る。

英國の元首相ホールドウィン Baldwin は我々は他の國民より勝れて
居るのでない。たゞ我々はたまたま他の國民と違つた経験を
得た。それは問題の解決に當つて暴力では得られない事と
永い経験の結果。お互の隔意ない協力の下に充分の討議を以て
解決すると言ふ方法を選定した事である。従つて政
党は理論闘争をやつて相排拮するものではない。ある
党が他の党を容れなくなつたらもう憲政はお終ひである。
互に禮を以て國家の爲に民情を盡して意見を交へる如
にデモクラシーの意義があるのである。ウエルソンが嘗て
言つた事があつた。デモクラシーは誤つて一個の理論が政治
の一形式に過ぎぬもの様に解されてゐるがそんなものでは
なくて文明の一段階である。それは何かあれは寄合ふとか
物は相談とか言ふ漸次風習から出来て居る。イギリス人
が独りこの風習を自然に民政に移すことに成功した。が
他の國民は太早計に之に突入 (rush into) して居る。培養

もせず之を採用したるのであると言々

(高) 流石に教養の高い實際政治家の卓見である。日本は今敗戦の衝撃
からウエルソンの所謂平生の培養もなくデモクラシーに突入 (rush
into) して天皇制を單に政治の形式と多分に感情的な理論とに捕は
れ過ぎて論議して居るのであらうか。

※(一) の *Common good* の言葉は H. Green の *Principles of Political Al-*
-igation から借つたものである。

※(二) *real will* と言ふ言葉は Baanquet の *Philosophical Theory of State*
から採つた。

※(三) 一八一四年伯林科学々會に彼が寄せた論文「種々な政体の概
念に就て」に依り

※(四) 一九三九年四月カナダのトント大学に於ける彼の英國及英國
人に就ての講演に依る。

日本天皇

歴史的に觀察して日本人の素質をその美点から言ふと元來明るい。理

想主義の宗教的情緒に豊か、然し下ら決してそんな排他的で偏狭なものではなく寛容な人道的精神に富んで、洒落 *humour* である。どんなに自國を愛し誇りとしても他國を根から輕蔑し排斥する様な性格とは凡そ縁遠い。一時的感情は別問題である。日本人の生活趣味を見てもすぐ分ることであるが日本人の様に世界中の飲食を愛好して、支那のでも欧米のでも其等の生活様式を容易に摂入出来る様な國民が何處にあるだろうか。儒教でも佛教でも基督教でも科学でも音楽、藝術でも何でも他國民の宗教や学藝をこれ程寛容に熱烈に共鳴した國民が何處にあるだろうか。それ大々言ふと、感情的で、激し易く消氣易く、とすれば輕脆で、移り氣である。唯終始一貫して日本民族は他國民と違つた一つの經驗を大成した。他民族が國家を成してゆく裡に絶へず主權者の安定を欠いて、所謂易姓革命を免れなかつたにも拘らず、日本民族は西紀で言へば五六世紀までに對立する諸豪族を完全に統一して元主たる地位を確立された皇室を推戴し、これを單なる政治的機關たるに止めず、プラトンの言葉を借りて言へば、民族最高の理性に當る治者たるしめんと

し、天皇より現實の個人的意志 *actual will*, *individual will* の放恣を去つて超個人的社會的意志とも言ふべき真正意志 *real will*、民族社會成員の共同善 *common good* を實現せんとする一般意志 *general will* の權化たるしめんとする哲學的道德的努力が君民一致して続けられた。それは全く宗教的情熱を以て行かれた。日本人は一切に内在する絶対者を認めてこれを神とし、國家の生成發展は神の生活であり、神は天皇にあつて生かした。これが現人神の思想である。決して天皇を色も形も聲もない神秘的存在とするものではない。象徴を發するものは東洋人の特質である。東洋人は眞理を抽象的概念的に思惟するに止まることか出来ない。必ずこれを象徴しようとする。天皇制の發達も一つはこの民族心理の特徵に因るものであつて單なる偶像禮拜と同視することの出来ないものである。この民族的努力の長期間に皇室は次第に淨化せられて、「私」を消失し、「公」に歸し、他國の王室に在る様な「姓」もなくなり、天皇の御名にも「仁」の字が附く様になつた。「仁」とは造化 *creation* を意味する。斯くして日本天皇には他國の君主の様な暴君と言ふべきものが出現し得

たゞ様になつてしまつた。フイルマーは英國史上案外暴君と言ふべき程の者はないと言つてゐるが、日本史上は全く無くなつてしまつた。アキナスの憂は日本に無くなつたのである。勿論皇室の地位權威の確立後も、之を奪つて新に自ら取つて代らうとした者も無いではなかつたが、まるで問題にはならなかつた。北條軍閥、足利軍閥の勢力、威望を以てしても皇室を迫害はし得たが自らこれに代ふことは思ひも寄らず、結局皇族の何人かを求めて新天皇を擁立するに過ぎなかつた。國民を個々に見れば愚昧なものが多くても全体となればそこに超個人的社會的精神が發現するから、所謂民の聲は天の聲 *vox populi, vox dei* で眞の權威は私心私欲からは到底長く成立しない。秦の始皇帝は朕より始めて子孫萬世に至らんと期したが、二代にして終り、あれ程ハイルヒットラーと呼ばせて自己を神聖化し、フユラーの權威を確立しようとしたヒットラーも一代ではかたぐ敗れた。日本の皇室が連綿として絶へず、天皇の權威が絶対化したといふことは實に地上稀有なことで、それは全く君民一致して天皇を尊ぶる政治的地位に止めず、さりとて羅馬法王の様に政治的地

位より完全に分離せず、眞の創造的立場に中した *authoritas* からである。日本の政治上注意を要する危険は暴君ではなく、この天皇の權威を假つて専制を行ふ特權階級の出現である。自己に対する民衆の不服を抑圧する爲に天皇の權威を利用する事を、衣冠の袖に隠るゝといふ。これは日本の政治道徳上最も重大な戒律である。東條大將も始終自分の威令の行はれ難いことには、聖慮しをふりかざした。然しこの事が度重なるにつれてその部下も國民も次第にその不当不敬を自覺して東條を批難し排斥する聲が高くなつた。東條一派の焦慮と反比例に國民が非協力的になつて行つたのは、こゝに一つの大きな原因がある。日本の政治上もう一つの危険性は、政治の要職にある者が身の安穩を計る爲に、累を皇室に及ぼす、と言ふことを好い遁辞にして責任を逃れ無爲無策に甘んじ國民の進取発展を阻害する事である。日本近代の重臣は一様にこの傾向が強かつた。これかどれぐらい國民の氣分を腐らせたか測り知れぬものがある。戦争末期に民衆の間から盛んに起つた大權発動論、天皇親政論はこゝにふ両様の政治家に對する民衆の不信と絶望との

反映であつて外國ならば当然民衆革命の起ころと云ふところであらうが日本の國
体ではさう言ふ時に必ず民衆は創造的地位に立つ天皇に直結しようとする
ものである。かう言ふ弊害を調整する (checks and balances) 爲に政府に
對して兩院と樞密院とがあつたのであるが、それが何れもその職責を盡
さなかつたので政治的責任は主として政府議會樞密院にある。天皇に政
治的責任はない。然し下ら天皇の道徳として深い「自責」は御ありにな
らねばならぬ。歴代天皇の詔勅を拝見すればその矣実に嚴肅である。
天皇は決して單なる政治的元首に止まるものではなく、前述の通り長い
長い間に民族の生活と理性とから築き上げられて来た國家の創造的主体
であつて、國民から言へば天皇は絶対であるが天皇からは完全な民本主
義である。只これを近代のデモクラシーの形に於て政治に組織運用する
だけの十分な培養が缺けて居つた。これを注意深く育て上げれば日本独
得の天皇制の下に他國とは趣の異つたデモクラシーの運用が行はれねば
ならぬ道理である。天皇制を廢すると云ふ様なことは民族の歴史を抹殺
する事であり、天皇制以上のもの四百年、千年か、つても日本人に出来

るものではない。

世には日本國家成立期の科學的研究により、皇室は必ずしも民族の宗家
でないとか、皇室と對抗する諸豪族を征服して始めて支配權を確立した
特權階級であるとか、古事記や日本書記を多分に皇室の政治的意圖の下
に作成された記録として皇室の權威を否認し、天皇と國民との關係を薄
くしようとすゝる學者もあるが、その時局に阿諛するか否かの學者的良心問
題は別にして、さういふ研究は今日何等日本國家と天皇との關係を動か
す事は出来ない。若しさういふ理由に依つて天皇の權威を否認するなら
ば人間の祖先は猿と連枝である、英國の祖先は海賊である、アメリカ
の祖先は掠奪者であるからと言ふ理由で人間の權威や文明の意義を無視
するに似しい。人類の歴史的發展の意味を知らぬ非學問的見解と言はね
ばならぬ。日本人もホルドウィンやウイイルソンの説いた様に自然にし
て眞實な生活の中から注意深く政治を育て、一朝一夕の激情偏見を以て
永久の不安と混乱とを招かぬ様にせねばならぬ。

